

SUMS News



「第32回 碧鈴祭」を開催しました！

大学祭実行委員長

保健衛生学部 放射線技術科学科 2年 碓 晴景

11月12日(土)・13日(日)の2日間に渡り、千代崎キャンパスにおいて「第32回 碧鈴祭」を開催しました。昨年・一昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により規模を縮小して実施しましたが、今年度は受付での検温や手指消毒の他、各催しにおける感染対策を行った上で3年振りのフル開催となりました。

今年度の「笑面突破 ～飛び越えろ！自分の限界～」のテーマに、ご来場いただく方はもちろんのこと、運営スタッフも含めた全員が笑顔で楽しめるような大学祭にしたい！という想いを込めました。

期間中は、2日間を通して各学科(専攻)の発表・クラブサークルによるステージや展示・学生等団体による模擬店・外部団体の出展・実行委員会による学生参加型企画を行いました。さらに、1日目にはクレヨンしんちゃんショー・よしもとお笑いライブ・サラナ保育園児による和太鼓演奏、2日目は市民公開講座・まるり&et-アンド-による音楽ライブなど、盛り沢山の内容で充実した大学祭となりました。

2日目は生憎の雨となってしまいましたが、ご参加いただいた皆さまに盛り上げていただき、ご来場者様・学祭スタッフともに多くの笑顔につつまれ、テーマ通りの碧鈴祭を成し遂げることができました。

今回は大学祭実行委員長を務めさせていただき、不安やプレッシャーもありましたが、大変貴重な経験をさせていただきました。また、委員会の仲間や先輩・後輩、学科発表担当の学生、各クラブサークルの皆さんなど、多くの方のご支援により事故もなく終えることができました。

碧鈴祭の開催にあたりご協力いただいた協賛企業様、近隣の自治会様、本学教職員・学生の皆さん、その他碧鈴祭にご参加・ご来場いただいたすべての皆さまに厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。 <学生課>



碧鈴祭の開催報告

市民公開講座 in 碧鈴祭を開催して

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 永澤 直樹

11月13日(日)に市民公開講座を行いました。これは千代崎キャンパスで行われた碧鈴祭(大学祭)内のイベントの一つでした。大学祭実行委員の学生達が学生課の支援を受け、企画、広報、講師の選定、会場設営等を日々の勉強の合間を縫って頑張ってくれました。コロナ禍で久しぶりの対面での通常開催であり、2・3年生にとっては経験したことのない大学祭を手探りで準備する、とても大変な作業だったと思います。



大学祭2日目である当日は前日の快晴とは打って変わり本格的な雨でしたが、それにもかかわらずたくさんの地域の方が集まりました。市民公開講座第1部は本学客員教授の長村洋一先生が「健康寿命延伸の温故知新」と題してお話をいただきました。健康寿命に関する要素についてわかりやすく、時には面白くお話いただき、会場からはうなずく声や楽しい笑いが聞こえてきました。私は第2部を担当し、「先生、何回もレントゲン撮って大丈夫でしょうか?~病院で上手な放射線検査との付き合い方~」というタイトルでお話をしました。メモを取りながら聞かれる参加者もいて、こちらも少しでも放射線検査を受けるときの不安を取り除ければと思い、思わず話に力が入りました。そして皆さん最後まで熱心にお聞きいただきました。

来年も通常開催が行えるよう、なんとかコロナ禍が落ち着いて欲しいですね。

3年ぶりの臨床検査学専攻の碧鈴祭・学科発表

保健衛生学部 医療栄養学科 教授 棚橋 伸行

11月12日(土)・13日(日)の2日間に渡り、「第32回 碧鈴祭」が3年ぶりに新型コロナ感染前と同様な形態で開催されました。臨床検査学専攻での学園祭の学科発表担当は、3年生全員で行うのが恒例となっていたのですが、コロナ禍により過去2回は通常通りの対面で実施がなされなかったため、全体の流れをつかんでいない状態での取り組みとなりました。また、毎年学生らが企画・実施していた臨床検査学専攻としてのバーベキュー大会や医療栄養学科としての球技大会など全学年で開催してきたイベントの経験もない状態であったので、全体として協調しながら乗り越えることができるかも課題でした。そのような中、本年度は今まで先輩方が実施してきた手洗い、嗅覚検査、尿試験紙、超音波検査、寄生虫顕微鏡等を行うことにしました。



当日開催してみると、2日間で小さい子供からお年寄りまで幅広い年齢層の延べ約400名近くの方々が体験され、学生らは自分の役割分担された持ち場で熱心に説明し、かつ皆が協力しながら行ったことで無事終了することができました。この大学祭で得られた協調性の経験が、1月から実施されます臨床実習を進めていく上において大きなステップとなればと考えています。最後に3年生の皆さん本当にお疲れさまでした。

<臨床検査学専攻>

モバイルファーマシーの展示・発表会を開催して

薬学部 薬学科 教授 林 雅彦

第32回碧鈴祭が開催され、薬学部からはモバイルファーマシーを展示し、253名の見学者がありました。小さなお子様連れのご家族から高齢の方々まで、幅広い年齢層の方々に好評を博すことが出来ました。薬学部教員と学生協力者が、見学者に対して説明を行いました。主な説明内容は、開発の経緯、ライフライン喪失下の被災地でも、散剤・水剤等各種医薬品を供給する機動力、全国導入状況(2021年1月時点で全国20台)、災害支援薬剤師の役割と薬学教育活用事例、等です。「被災地では想像できない状況下におかれ、薬がない不安に陥る方が多いと思います。そのような方達に少しでも不安を減らしてあげられる体制がもっと広がれば良いと思いました」等、モバイルファーマシーの存在は、県民の安心・安全に繋がり、また、災害支援薬剤師の存在意義の理解が高まるのが、アンケート結果からよく分かりました。今後も、災害時医療と薬剤師の関りについて、地域の皆様にモバイルファーマシーの展示・説明会という形で、広げていければと考えています。



参加者が作成できるゲーム体験と360°VR映像体験

大学祭実行委員会・医用工学部 医用情報工学科 3年 小津 拓生

11月12日(土)、13日(日)に3年ぶりの一般公開かつ対面での大学祭(碧鈴祭)が開催されました。本学科では、催し物として講義で学んだプログラミングを活用して作成した「参加者が作成できるゲーム体験」と映像データなどの情報に手軽に触れていただく一環として「VR映像体験」を行いました。

今年は大学祭実行委員会の学科メンバー全員が対面での大学祭が初めてということもあり、不安が残る中での開催となりましたが、大学祭メンバー間でうまく連携をとり、2日とも100名以上の入場者が集まり、盛況に大学祭を終えることができました。下記に催し物を紹介します。

(1) 参加者が作成できるゲーム体験(学生が自作): 簡単なシューティングゲームを遊んでいただき、希望された方には、学科メンバーが自作したソフトを使用して同じようなシューティングゲームを実際に作り、システム作りの魅力を伝えることができました。参加者はゲームの難易度やプレイヤーの設定など普段では触れることのできない部分を自分で自由に決めることができます。参加者のなかでも特に小さなお子様は自分で作成したゲームを他の人に遊んでもらうなど作成する喜びを体験しました。

(2) 360°VR映像体験: 参加者に360°視聴可能な動画をスマホとVRゴーグルを使用し、映像体験をしていただきました。動画はジェットコースターの映像でしたが、ジェットコースター特有の浮遊感はなく、ジェットコースターが苦手という方でも楽しめました。また体験者の周りで見ている方も、体験者が周囲を見回している様子を見て楽しい時間を過ごしました。



360°VR映像体験

ボランティアセンター活動報告

「SUMSラジオ」の初収録を実施

10月14日(金)に「SUMSラジオ」の初収録を行いました。

「SUMSラジオ」は2021年度教育改善提案企画で採択された高木久代副学長の企画で、企画に賛同した有志学生10名による自主制作のFMラジオ番組です。集まった10名の学生は鈴鹿ヴォイスFMにお力を借りながら9月から打ち合わせを始め、自分たちで考えた収録用の台本を片手に緊張した面持ちでスタジオに入りました。

初回の放送では、番組名の由来や大学紹介、碧鈴祭についての紹介を話しました。その他にもラジオのタイトルコールや毎日18時に流れる時報の収録も行い、緊張がほぐれた学生たちは笑顔で収録を終えることができました。収録を終えた学生からは「緊張したが、収録が始まるととても楽しかった」「学生ならではの楽しい雰囲気、大学の魅力を伝えていきたい」といった声が聞かれました。

今後も大学情報や健康相談コーナーなど、積極的に情報発信を行っていきますので、ぜひ「SUMSラジオ」をお聞きください。

【放送スケジュール】・月曜日 18:30～(再放送: 火曜日 20:00～・金曜日 15:30～)

ラジオをお聞きになりたい方は、鈴鹿ヴォイスFM(78.3MHz)またはスマートフォンアプリ「Radimo」のダウンロードをお願いします。



Radimo
ダウンロード用
QRコード

＜学生課＞

ボランティアセンター 学外清掃活動(5・6・7回目)



10月13日(木)・11月10日(木)・12月15日(木)に、学生ボランティアが学外の清掃活動を行いました。

今年度5回目の清掃活動は天候に恵まれ、20名の学生が6チームに分かれて千代崎キャンパス周辺の清掃活動を行いました。食事のゴミや空き缶など飲食に関するゴミをたくさん拾うことができました。6回目では、白子キャンパス周辺の桜の森公園や国道23号線沿いを中心とした清掃活動に30名を超える学生が参加しました。白子キャンパスに通学している1年生の参加者も多く、普段利用している通学路の清掃活動を積極的に行いました。7回目は厳しい寒さの中、積極的に田古知川周辺を清掃し、ファストフードやタバコの吸い殻など多くのゴミを拾い集めました。

清掃活動に複数回参加する学生も増え、だんだんと手際よくゴミを集めることができるようになってきました。今後も引き続き、積極的に清掃活動に取り組んでいきます。

＜ボランティアセンター＞

「京都バスツアー」を行いました！

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻3年 鈴木 悠乃

新型コロナウイルス感染拡大前には恒例となっていたバスツアーを、今年度ようやく再開することができました。

当初は7月31日を開催日として告知や募集活動を行っていましたが、春先から夏にかけて感染者数が増加傾向にあったことから延期を決定。改めて、開催日を12月17日(土)に設定し再度募集を行ったところ、前回を上回る方からお申し込みをいただきました。残念ながら開催直前に濃厚接触者になった方や感染不安等によるキャンセルもあったため、実施当日は87名・大型バス3台にて出発しました。



出発前に参加者全員の抗原検査・体温チェック、乗車の度の手指消毒など徹底した感染対策を行い、参加者の協力もあり安心して移動することができました。旅先の京都では、ハンディクラフトセンターで無線七宝や匂い袋作りの体験を行いました。どちらの体験も制作が思うようにいかなかったり難しい部分もありましたが、参加者からは和気あいあいと楽しんでいる様子を感じ取れました。その後、学友会が作成した旅のしおりを手に各自で市内散策を楽しみ、清水坂に再集合の後、無事に千代崎キャンパスへと戻ってくることができました。

参加者からは、「他学科の人とも仲良くなるきっかけになった」「散策だけでなく体験ができて良かった」「思っていたより楽しかった」などの声を聞くことができ、何より多くの方の笑顔に触れることができ学友会執行部一同実施して本当に良かったと感じました。

来年度以降も学生同士の交流を一番に考えた様々なイベントを行いますので、是非参加してみてください。最後に、バスツアーを開催するにあたりご協力いただいた方々、参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。

＜学生課＞

国際交流協定の締結について

国際交流委員会 副委員長 永坂 哲

■インドのクーグ歯科学大学 (Coorg Institute of Dental Sciences) (2022年11月1日付)。同大学の創立は1999年で、学生数約300人の歯学部単独の私立大学ですが、創立当初から高い歯科医師国家試験合格率を維持する全寮制のユニークな教育を展開しており、教育に力点を置く本学と交流できる分野が多々あると思われます。また、同大学は最寄りのラジブ・ガンジー健康科学大学とも連携があり、本学にとって将来的なネットワーク展開の足掛かりとしても期待されます。

■オーストラリアのグリフィス大学 (Griffith University) (2022年11月21日付)。グリフィス大学は、オーストラリア・クイーンズランド州南東部に1971年に創立された公立総合大学で、約55,000人の学生がデジタルキャンパスを含む5つのキャンパスで学んでいます。グリフィス大学は、本学に比して規模が遥かに大きいものの、本学が擁する医療系4学部10学科14専攻分野の多くに対応する学部・学科・分野を有しており、国際交流に熱心な大学であることから、交流の発展が期待されます。比較的日本から近い英語圏親日先進国の大学が、本学の国際交流に新たな特色を添えてくれることになりました。

■米国のセント・ベネディクト/セント・ジョンズ大学 (College of St. Benedict/St. John's University (CSB/SJU)) (2022年12月26日付)。CSB/SJUは、アメリカ合衆国らしさとその歴史の匂いが強く感じられる中西部ミネソタ州に位置する、由緒・歴史あるカトリック系の大学です。CSB/SJUは、カトリック系女子大学のCSB(創立1913年)とカトリック系男子大学のSJU(創立1857年)が1961年に合併した総合大学でありながら、総数約4,000人(男女比ほぼ同等)という学生数においても、男女比においても、本学に似た親しみ易さを持ち合わせています。本学に関連する医療系学部・学科も相当数擁し、これらの教育分野において同じような事情・課題・展望が共有・共感できるという相互認識もあり、本締結に至りました。よりフィージビリティの高い短期派遣・受入れ交流から始めて、徐々に交流を盛り上げることが双方の願いです。

人間の多様性のみならず、同一性への気付きと創造の機会を提供してくれる国際交流に益々期待が膨らみます。延いては国際交流がもたらす国際感覚の醸成が、本学の教育に豊かさを添えてくれることを願っております。

医療人底力教育について

「医療人底力実践（応用）」実習報告会

多職種連携教育委員長 吉子 健一

10月22日(土)2限に、2022年度「医療人底力実践（応用）」実習報告会がZoomで行われました。今年度の実習も、少なからず新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けました。当初は25名の履修登録があり5施設での実習を予定していましたが、実習中止および実習に際しワクチン接種やPCR検査の実施が必要となった施設が生じ、最終的に3施設において16名の学生が実習を受けました。やむを得ず履修取り消しされた学生の皆様に対しご希望に添えず申し訳なく思います。



報告会は、本科目の代表教員であるリハビリテーション学科の野口佑太先生の司会により、各施設10分の持ち時間で実習内容や実習を通しての気づきなどが報告されました。この実習は、多職種連携やチーム医療教育の総仕上げと位置づけられていますが、報告会は底力教育で学んだディベート、グループワーク、プレゼンテーションのスキルをフル活用する場でもあります。各施設の発表後には、学生間で的確な質問、適切な回答も行われ、とても素晴らしい実習報告会であったと思います。報告会には18名の教職員が参加し、実習施設の桜の森病院、三重大学医学部附属病院の実習担当者様にも参加いただきました。施設の方々からのコメントを紹介します。「患者のために何ができるかを考えたとき、色々な部門のスタッフが関係して医療を提供していることを学んでいただけたと思う」、「初めて多職種連携に関する実習生を受け入れ、院内の多職種の協力で準備した」、「我々も学生の考え方を学べた」、「自職種の専門職のベースをしっかりと修得することは重要」、「自職種のみならず多職種の視点で考えることができた」、「目標の一つとして取り組むことの重要性を理解してもらえた」。本実習は、実習医療機関の特性から各施設において同じ内容のプログラムを行うことは難しいので、報告会を行うことにより各施設における実習内容を共有することで、多職種連携の学びが益々深まったと思われます。発表内容は、昨年10月にお知らせしたURLにて確認できます（2023年3月末まで）。学生の皆様におかれましては、「事例で学ぶ多職種連携」や「実践で学ぶ多職種連携」の受講を検討する際の参考になりますので是非ご視聴ください。

委員会では今年度の実習を振り返り、来年度の実習を益々充実したものにしていける所存です。最後になりましたが、コロナ禍であるにもかかわらず実習にご協力いただきました3施設の関係者の皆様を始め、委員会委員の先生、授業担当の先生、事務局の皆様にご感謝申し上げます。

「2022年度 医療人底力教育 アカデミックフェア」を開催

底力教育センター長 福田 八寿絵

医療人底力教育センターは、1月12日(木)4時限にオンラインで「2022年度 医療人底力教育 アカデミックフェア」を開催しました。

「アカデミックフェア」の目的は、初年次における底力実践の学習成果を、学生の皆さんと共有し、次年度以降に活かすこと、また、多くの皆様に知っていただくことにあります。本年度は、新型コロナの感染リスクを低減させる観点から、対面・オンラインのハイブリッド方式で授業を行いました。

初年次の底力実践は全学対象の科目で、約700名の新入生が履修します。全学生が学科の枠を越えて14クラスに分かれてグループワークを行い、ともに学ぶ経験を持ちます。

今年度は各クラス担当教職員の評価による優秀者14名、学生評価による優秀者1名を表彰し、優秀者によるプレゼンテーションも実施しました。各クラスの代表学生が医療福祉や社会的な課題、例えば、安楽死、認知症患者への告知、ヒーローの暴力行為の子どもへの影響、レジ袋有料化、昆虫食など興味関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行いました。収集した情報を丁寧に調べ、整理し、図表やイラストを効果的に入れ、アニメーションの技法を取り入れるなど様々な工夫をし、問題意識をもって意欲的に取り組んだことがよくわかる素晴らしい内容でした。

医療人底力実践Ⅳの振り返り、学びについて学生の感想を一部紹介します。「自分とは違う価値観が分かり、自分の知らない事を沢山知ることができ勉強になりました。また初対面の人達でグループを作り、意見を出し合うなどし、チーム医療について学ぶことができたと感じました。この経験を生かして医療環境で互いに連携して、患者中心の医療を実現していこうと思いました。」

学生の皆さんが、相互に切磋琢磨し、さらに研鑽を積み、医療福祉専門職として成長していくことを期待します。

最後になりましたが、ご協力いただいた教職員の皆様にご心から感謝申し上げます。

日本は医療において積極的な
死を認めるべきである

瀬戸 尚

福祉住環境コーディネーター2級の合格報告と将来の抱負

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 3年 島尻 頼史・阪 拓人・中村 匠吾

福祉住環境コーディネーターとは、高齢者や障がい者が自宅で過ごすうえでの安全性や快適性を高めるためのアドバイザーで、主に福祉用具や介助用具のアドバイスを行います。今回私たちは、福祉住環境コーディネーター2級を取得しました。本資格にて、住宅改修費支給申請の理由書を作成することが可能になります。

資格取得に向けた対策は2か月前から行い、公式テキストを読み、定期的に過去問題集を解き理解度の向上を目指しました。試験内容には学部講義での既習範囲もありましたが未習の内容や理解が難しい内容もありました。この点に関して

は理学療法学専攻助教の伊藤和寛先生に手厚くサポートをしていただきました。現在私たちは、リハビリテーション学科理学療法学専攻に在籍しています。ケガや病気などで身体に障がいのある人や障がいの発生が予測される人に対して、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの勉強に励んでいます。

将来病院や施設で働く際、患者さんが住宅改修をする予定がある場合などに、この資格を取得するにあたって得た専門的な知識を活かしたいです。また質の高い医療を提供できる理学療法士として社会に貢献できるように、更に日々勉強に励む所存です。

＜理学療法学専攻＞



島尻さん、中村さん、阪さん（左から）

第21回東海北陸作業療法学会で研究発表

保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 3年 野田 彩乃・岡本 夢花・森下 夏妃

11月12日(土)から開催された第21回東海北陸作業療法学会で演題発表をしました。今回、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインでの開催となりました。

私たちは、卒業研究として取り組んでいる「上肢リハビリテーション支援システム使用時の脳波及び筋電図学的検討」について発表しました。

上肢リハビリテーション支援システムは、机上で使用できる小型移動ロボットと専用ボード、ゲームアプリケーションを実装したパーソナルコンピュータで構成されています。この支援システムを10分間操作することによって、実施前後でステージクリア時間が有意に短縮し、支援システム操作時の三角筋前部の最大筋活動が有意に低下しました。このことから、支援システムを用いた練習を行うことで運動学習が進み、動作の効率化が得られることを報告しました。

学会発表は初めての経験であり、緊張しましたが、仲間と一緒に行うことで研究活動を楽しむことができました。また、臨床で活躍されている作業療法士の皆さんの演題発表を視聴し、自分たちが臨床現場に出てからも対象者（患者さん）のために何ができるのかを考えていきたいと思いました。今回の経験を活かしてこれまでに以上に学業に励んでいきたいと思っています。

＜作業療法学専攻＞



野田さん、岡本さん、森下さん（左から）

4年生の「卒業課題」発表会に3年生も参加して

看護学部 看護学科長 江口 秀子



4年生が4月から取り組んできた「卒業課題」の発表会を12月20日(火)に開催しました。「卒業課題」は、3年次での「看護専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」における学習成果をもとに、これまでの学習の中で感じた疑問や臨地実習での体験を振り返り、看護における自らの研究課題を設定し、論理的にまとめ、表現する力を養うことが目的で、看護学生としての4年間の学びの集大成となります。

昨年まではゼミ単位での発表会となり日時もまちまちでしたが、今年は4年生全員が同日に5つの講義室を使用して、学会形式で発表会を実施しました。事例

研究や文献研究の成果をパワーポイントを用いて7分間にまとめ発表し、活発な意見交換が行われました。

その発表会に3年生も参加しました。3年生は自分の興味・関心のある看護学やテーマを選択して発表会場に行きました。現在、臨地実習中の3年生は、先輩の発表を聞き、自身の実習での体験と照らし合わせて質問したり感想を述べていました。そして、「自分たちが思っていた以上に色々なテーマがあることに驚いた」「今まで以上に看護に興味がわいてきた」という声が聞かれました。このような先輩・後輩の交流の機会を今後も続けていきたいと思っています。

第7回日本薬膳学会学術総会、市民公開講座を開催

日本薬膳学会学術総会事務局長

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科長 山本 晃久

11月27日(日)白子キャンパスにおいて、「感染予防と食養生」をテーマに第7回日本薬膳学会学術総会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響から、市民公開講座は対面開催、学術総会はオンデマンド開催となりました。

市民公開講座では、大西健児 救急救命学科教授が「冬の食中毒」と題して、食中毒の発生状況・原因・予防について解説いただき、特に冬に多いノロウイルスによる食中毒への対策予防について具体的な方法を含めて解り易くお話をされました。また、薬膳ランチセミナーでは、高木久代 代表理事より「和の薬膳」と薬膳弁当の料理内容について解説されました。



学術総会は、譚 興貴 世界中医薬学会連合会 薬膳食療研究専門委員会会長の来賓挨拶、高木代表理事による「日本薬膳学会からの提言」、教育講演として斉藤宗則 鍼灸サイエンス学科元教授による「中国伝統医学における薬膳の役割」、熊取厚志 医療栄養学科教授による「感染症と栄養」、特別講座として有馬 寧 東洋医学研究所所長による「タウリンと健康」、鈴木宏治 副学長による「海藻ラムナンで健康寿命を延ばす!」、海外特別講演として史 麗萍 天津中医薬学大学教授による「中国薬膳大辞典に基づく免疫力向上薬膳の例」についてオンデマンド配信され、日本だけでなく、中国、台湾、マカオの専門家の方々が見聴されました。市民公開講座では、末松則子 鈴鹿市長も応援にかけつけてくださいました。感染をテーマに薬膳・食の最新事情について教養を深めた内容の濃い学術総会になりました。

第13回薬学セミナー

薬学部 薬学科 助教 廣森 洋平

10月13日(木)の第13回薬学セミナーで、本学薬学科の免疫制御学研究室の西田圭吾教授と分析化学研究室の定金豊教授にご講演いただきました。

西田先生は、「免疫制御学研究室の紹介」というタイトルで発表を行いました。まず、亜鉛は必須微量元素であり、亜鉛が欠乏すると様々な症状が現れる事などを分かりやすく解説しました。続いて、褥瘡患者の血清亜鉛濃度を測定したところ、大半の患者が亜鉛不足であり、亜鉛製剤を投与することで褥瘡の治癒が早まることを明らかにし、その作用メカニズムについて大学院生と共に解析した内容を、実験データを示しながら紹介しました。

定金先生は、「光化学的技術を利用した新しい方法論の開拓」というタイトルで、光を照射することで最寄りの分子と共有結合を形成する性質を持つ光反応基を付加した糖鎖、DNAおよびタンパク質を用いた解析手法の開発について紹介しました。まず、従来の分子生物学的解析では、弱い相互作用を検出するものであるが故に明確な結果を出すことができないことが欠点であり、これを改善するために光反応基に着目したことを説明されました。そして、光反応基を用いることで、より強い相互作用が形成され、明確な結果が得られることを実際の泳動写真を示しながら、分かりやすく説明してくださいました。

西田先生のご講演では、亜鉛の新たな機能に関する知見を得ることができ、また、定金先生のご講演では、光反応基を利用した先進的な解析手法について学ぶ機会を得ることができました。お二人の先生方にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

三重県臨床工学技士会長講演に出席して

医用工学部 臨床工学科 3年 福岡 瑞騎



11月10日(木)に行われた三重県臨床工学技士会長の中村博一先生の講演に出席しました。講演では、臨床工学技士の教育と臨床経験、キャリアの積み重ねについてご自身の経験を踏まえてご説明頂きました。また、臨床工学科3年生・4年生対象の講演であったので、臨床実習の心得、就職活動での注意事項についても詳しいお話を頂きました。私が特に印象に残ったのは、臨床実習でどのような所が見られているかのお話でした。基礎的なことができているのか、危険なことをしていないか、工具の扱いに慣れているか、YES or NOで答えられるかの4点についてお話しされたかと思います。基礎的なことができているかについては、具体的な例として、生理食塩水の「生理」の意味を聞かれることを挙げられて、正直焦りました。しかし言葉には意味があり、その意味の一つひとつを理解することで、大きな壁に直面した時も初心に立ち返り解決できるというメッセージだったように感じました。

講演後も質疑応答の時間を取って頂き、学生からの三重県内での就職状況、女性が臨床工学技士として働く場合、産休などをはさんで仕事を継続できるかなどの質問に丁寧に答えて頂きました。臨床工学技士を目指す私にとってとても有意義な講演を開催して頂き、これからの臨床実習、就職活動にも活かしていきたいと考えています。

管理栄養学専攻の学生とマックスバリュ東海がお弁当を共同開発

保健衛生学部 医療栄養学科 助教 若杉 悠佑

管理栄養学専攻の4年生とマックスバリュ東海株式会社が共同開発したお弁当「鈴華御膳 彩り野菜と豆のキーマカレー」と「鈴華御膳 3種きのこあんかけ豆腐ハンバーグ丼」が、11月5日(土)からマックスバリュ店舗計207店舗にて販売されました。本学のこのコラボ企画への参加は、今年で7年目11回目となり、2種類の商品の開発は初めてでした。

マックスバリュ東海では、健康でいきいきとした生活を送るためにバランスの良い食事、すなわち「ちゃんとごはんを食べる」ことを広く知っていただく機会として、「ちゃんとごはん」企画を実施し、地元の学生とコラボレーションして栄養バランスを考慮したお弁当や惣菜の開発などに積極的に取り組まれています。

学生のコメント：4月から取り組みを開始し、5月から試作を重ねて提示し、商品化したものです。若者らしい発想で取り組むことができたと思います。国家試験勉強の合間を縫ってアイデアを出し合いました。4年間管理栄養士を目指して学んだ栄養学がギュッと詰まっています！



南川竜太郎さん、奥村有紗さん、
峪口風花さん、小川萌加さん(左から)



「鈴華御膳 彩り野菜と豆のキーマカレー」

大豆ミートと3種の豆(金時豆、大豆、青大豆)が入ったキーマカレーです。豆はお肉に比べて低エネルギーで食物繊維も豊富です。また、スパイスが効いた本格カレーです。カラフル野菜で彩り豊かなお弁当を目でも楽しんでもらえるようにカフェ風のお弁当に仕上げました。



「鈴華御膳 3種きのこあんかけ豆腐ハンバーグ丼」

ボリュームたっぷりな健康的な、男性の方にも満足していただける丼を目指しました。ハンバーグには、豆腐を使用しました。お肉のハンバーグに比べて低脂質・低エネルギーなのに、たんぱく質はきちんと摂ることができます。あんには、秋の味覚のきのこを3種類使いました。きのこの風味と食感を楽しんでいただけます。

<管理栄養学専攻>

食品企業の施設見学とレシピ提案について

保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻 4年 佐々木 様子

毎年H&Nサークルでは、三重県農林水産部農産物安全・流通課の依頼を受けて、食の安全安心を伝える活動に参加しています。今年は、9月6日(火)に株式会社ミエライスおよび平和製粉株式会社、朝津味を視察し、三重県の特産物を使ったレシピ提案をさせて頂きました。

視察を通して、玄米・原麦から私たちが普段目にする真っ白なお米や小麦粉になるまでの一連の工程と、それを支える技術及び徹底した安全管理などへの取り組みを知りました。施設では、異物の混入が無いようにHACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point: 危害要因分析重要管理点)に基づいた、特に厳しい衛生管理を行って生産されており、その生産を支える従業員の方の健康にも配慮がなされていました。お米や小麦粉は商品になるまでの工程が多いからこそ、施設の設計段階から機械の配置などに工夫を凝らし、より安全なものを継続して生産するために徹底された品質管理が欠かせないということを実感することができ、非常に貴重な経験をさせて頂きました。また、幅広いニーズに応えるべく多くの品種を取り扱い、開発なども行っていることから、常に進化し続けることの柔軟性や何事にも挑戦し続けることの大切さについても学ぶことが出来ました。

レシピ作成では、施設見学させて頂いた企業の食品を中心に、三重県の食材を生かしたレシピを実際に作成してみて、自身も三重県の特産物についてより深く知る機会となりました。幅広い多様なレシピに仕上がったので、様々な場面での活用やこれらのレシピを通してより多くの方に三重県の特産品について興味を持ってもらい、気軽に手に取って頂きたいです。

<管理栄養学専攻>



もち小麦のきのこガレット



学生が考案した
三重県産食材を
活用したレシピ
(三重県HP)

桜の森白子ホームのご利用者と一緒にさつまいもほり

保健衛生学部 医療福祉学科 助教 佐脇 幸恵

10月のさわやかな秋晴れのもと、社会福祉法人サムス会桜の森白子ホームの「桜の森のうえん」にて、医療福祉学専攻1年生が白子ホームのご利用者と一緒にさつまいもほりをしました。新型コロナウイルス感染症の流行によって、対面でコミュニケーションを取る機会や交流する機会が減っている中、共に作業できたことは、学生にとってもご利用者にとっても有意義な時間となったのではないかと思います。参加した学生からは、「利用者の方が元気に鍬やスコップを持って芋ほりをする姿に衝撃を受けた」「施設の職員さんと入居者の方が歌に合わせてリズムカルに手を動かして作業していたのが印象的だった」「私たちにとっては比較的容易な動作でも高齢者の方が行う時には時間がかかることもあると思うが、施設の職員さんの配慮や丁寧な対応が印象的であった」「高齢者の方と関わることができてとても楽しかった」「機会があればまた参加したい」といった感想があり、ただ作業をするだけでなく、ご利用者や職員の方々の様子をよく観察し、自分なりに気づきや学びを得ていたことが大変嬉しく思いました。



学生たちには、今後も人と人とのふれあいを大切にしながら地域社会の中でさまざまな体験を豊富に積み重ねて、知識としての社会福祉だけでなく、豊かな人間性を養いながら、ソーシャルワークの実践的な学びや社会福祉のあるべき姿を探求していってくれることを期待しています。

＜医療福祉学専攻＞

「鈴鹿市教育委員会不登校対策担当者ミーティング」やってます

保健衛生学部 医療福祉学科 助教 西山 佳子

小中学校の不登校児童・生徒は全国で244,940人におよび、9年連続で増加しています。医療福祉学科臨床心理学専攻では鈴鹿市教育委員会の依頼を受け、不登校対策担当者ミーティングにアドバイザーとして教員2名を派遣しており、今年度は渡部教授と西山が担当しています。

不登校対策担当者ミーティングには鈴鹿市内の小中学校から教員や管理職および鈴鹿市教育支援課から教員経験者が出席するだけでなく、本学医療科学研究科医療科学専攻で臨床心理学を学ぶ大学院生も勉強のために出席しています。今年はずでに8月23日(火)、10月17日(月)、11月18日(金)に開催し、今年度内にもう1回開催される予定です。

不登校対策担当者ミーティングでは毎回、不登校児童・生徒を担当している小学校または中学校の教員から、現在対応に苦慮している事例を挙げていただき、対象の児童・生徒および保護者に学校現場で実践する支援について、支援に必要な情報収集、収集した情報から考えられる具体的な支援方法、学校現場での支援体制の作り方などについてアドバイスしています。

小中学校の先生方は児童・生徒を“理解する”ことの大切さをご理解されているものの、具体的な支援に向けた具体的な対応方法や体制づくりといった具体的な動き方になると、日ごろの忙しさもあってか、実践に至っていないケースが多いようです。ミーティングに出席された先生方からは私たちからの具体的なアドバイスを評価していただいております、今後も先生方のお役に立てるよう努めていきたいと思っています。

＜臨床心理学専攻＞

本学教員の 新刊案内

臨床に役立つ歩行運動学

著者：保健衛生学部リハビリテーション学科長
畠中泰彦

出版：運動と医学の出版社

11月25日、保健衛生学部リハビリテーション学科長の畠中泰彦教授の著書「臨床に役立つ歩行運動学」が、運動と医学の出版社から発行されました。通販サイトamazon.co.jpでは、予約期間の11月21日から12月17日現在まで、理学療法学分野でベストセラーを更新しました。本書はリハビリテーション関連職種だけでなく、ヒトの歩行を研究する全ての人向けに書かれています。興味のある方は是非書店で手に取ってみてください。



メッセナゴヤ2022に出展

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 教授 浦田 繁



11月16日(水)～18日(金)にかけて、17th 異業種交流展示会「メッセナゴヤ2022」がポートメッセ名古屋にて開催されました。本展示会は、出展社数が800社におよぶ日本最大級の展示会で、業種や業態の枠を超え、幅広い分野・地域からの出展を募り、出展者と来場者相互の交流・情報発信を図る事業です。

今回、鈴鹿医療科学大学(with一般社団法人日本薬膳学会)として副学長の高木久代教授とともに出展しました。異業種ということで製造業をはじめ医療・流通・地域団体・自治体など様々な方々が出展しており、来場者も40,000名を超える盛況ぶりでした。当日は、本学ブースを訪れる方々への交流に加え、さまざまなブースを見学させていただき交流を深めました。

『マスクを外し会話をしながらの飲食』はもう少し延期しよう！

保健衛生学部 救急救命学科 教授 大西 健児

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。本学の学生にも感染者が発生しています。若い人が感染しても無症状や軽症で経過する例が多く、緊張感が薄れつつあります。しかし、元気な感染者から高齢者や糖尿病、悪性腫瘍などの基礎疾患がある人に感染した場合は重症となり、死亡することもあり得ます。また、感染した学生は実習先から実習不許可の指示が出ることがあり、学業への影響も考える必要があります。つまり、医療系の大学である本学の学生は、感染防止に努める必要があります。

学生の感染経路として増加しているのは、友人たちとマスクを外して会話をしながら食事をするすることで感染が成立するケースです。このような感染は阻止することが可能です。友人たちとマスクを外して会話をしながら食事をすることを行わなければよいのです。

新型コロナウイルス感染症に有効な抗ウイルス薬がありますが、使用条件が決められており、誰でもその処方を受けられるわけではありません。普段健康な学生が新型コロナウイルスに感染しても、抗ウイルス薬は処方されないと思います。やはり、感染しないことが重要です。友人たちと会話をしながら、マスクを外して飲食をすることはもう少し延期しましょう。

教員による研究成果について

人工臓器に関する学術雑誌 ASAIO journal に掲載

COVID-19の蔓延により広く知られるようになった体外式膜型人工肺(ECMO)を用いた治療法は、肺や心臓に損傷を受けた患者に対して行われる生命維持療法です。しかし、薬物療法の観点から、通常の感染症患者に対する抗菌薬療法の治療指針がECMO治療患者にも同様に適応できるかどうかは明らかでなく、また、現在我が国のECMOで主に用いられているヘパリン(H)-コーティング回路と合成高分子(X)-コーティング回路への薬物の吸着性の違いに関するデータはありませんでした。

そこで本学薬学科の榎屋友幸准教授は三重大学病院の教職員との共同研究により、H-コーティング回路およびX-コーティング回路における抗菌薬(セファゾリン、ドリペネム、ダブトマイシン、レボフロキサシン)の吸着性について研究しました。実験では、臨床現場で用いられている両ECMO回路に、抗菌薬を一定濃度になるように添加したウシの新鮮全血を24時間循環させ、経時的な薬物濃度の変化を測定しました。

その結果、H-コーティング回路にドリペネムを循環した場合にのみ有意な低下がみられ、それ以外の抗菌薬にはどちらの回路においても吸着による濃度低下はみられませんでした。この実験データに基づき、患者がH-コーティングのECMO回路を装着した状況を想定したシミュレーションを行い、ドリペネムの低下が臨床上的どの程度影響するかを検証したところ、ドリペネムがH-コーティングECMO回路に吸着されたとしても、臨床上是問題がない範囲の低下であると推測されました。

以上の結果から、H-コーティングまたはX-コーティングのECMO回路を装着している患者においては、抗菌薬のセファゾリン、ドリペネム、ダブトマイシンおよびレボフロキサシンを投与する際に、回路への吸着の影響を考慮する必要はなく投与できることが明らかになりました。

本研究成果は米国人工内臓学会関連の学術雑誌ASAIO journal (Wolters Kluwer社)に掲載されました。

掲載論文: Kato T, Enokiya T, Morikawa Y, Okuda M, and Imai H, Sequestration of Antimicrobial Agents in Xcoating and Heparin-Coated Extracorporeal Membrane Oxygenation Circuits: An In Vitro Study (2022) ASAIO journal, 10, 1097. doi: 10.1097/MAT.0000000000001842

＜副学長(大学院・研究担当) 鈴木宏治＞

学生相談室通信

学生相談室長・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 綾野 眞理

鈴鹿おろしが身にしみる季節です。COVID-19の感染防止として換気のために窓が開いていることもあって、教室内も廊下もどこもかしこも寒いです。知らず知らずのうちに肩や背中に力が入り猫背になってしまいました。これは「寒さ」というストレスに対して必死に身を守ろうとする努力の表れであり、ある意味、「寒さ」に適応した姿勢でもあるわけですが、やはり、ずっとこの姿勢でいると肩は凝るし疲れるし、動きづらくなります。動きづらくなると、からだだけでなく気持ちの方も何だか元気がなくなってきてしまいます。私たちのところとからは深いつながりがあり、お互いに影響しあっているわけですから、自然の成り行きとも言えます。

そこで、これを逆手にとって、何だか最近気分がパツとしないなという時は、思い切って少しからだを動かしてみてもいいと思います。まずは手をグーパーさせてみたり、手首・足首をブラブラさせたり、回してみたり、できるところからでもいいと思います。朝、ベッドから出るのが億劫な人は、ベッドの中で背伸びをするのも良いと思います。そして、もう少し動いてみたいなあと思ったら、ラジオ体操などもお勧めです。やり方がよくわからない人はネットで検索すれば動画がアップされています。朝でなくても好きな時間にできます。まずはラジオ体操第一から真似してやってみましょう。きちんと真似をすると、小学校の時にやっていたものとは別物かと思うくらい、汗ばむほどの良い運動になります。物足りない人は第二もどうぞ。からだ動きやすくなると、こころも柔軟になり、寒さだけでなくいろいろなストレスに対抗する力も高まります。期末試験や国家試験の勉強にも集中しやすくなると思います。



「少子化対策はハンガリー精神で」

「異次元いじげんの少子化対策」という言葉が、岸田首相の口から飛び出した。何年か前から、宰相の言葉に重みが無くなり、それに伴って、オーバーな修飾語ばかりが目立つようになってきた。「異次元の」というのはそんな類の修飾語たぐいじゃないと信じていたものだ。「異次元」とは何か。辞書で調べると、① 異なる次元。また、次元の異なる世界。「異次元空間」② (比喩的に) 通常とは全く異なる考え方、また、それに基づく大胆な施策。「一金融緩和」とある。だから、「異次元の少子化対策」とは「通常の発想では考えられないほど大胆な少子化対策」ということになる。具体策はまだ分からないが、異次元って言うんだから、誰もが考え付くようなイージーな対策じゃないだろうね。もし、そうだったら、おじさんマジ怒るぞ。

何しろ日本の人口は10年くらい前から年々減り続けているんだ。それもそのはず、「一生の間にひとりの女性が生む子どもの数を指す」合計特殊出生率は、この30年間1.5を下回り、2022年には1.27程度になるという。現在の傾向が続けば、あと30年前後で日本の人口は1億人を割ってしまい、50年後には日本の人口は9千万人を割り込み、1年間に生まれる子どもの数も50万人を割ってしまうという。イーロン・マスクに言われるまでもなく、今のままでは日

本は消滅しちゃうよ。計算上、1000年は持たないようだ。SDGs(持続可能な開発目標)も結構だが、その前に日本という国が持続可能にならなきゃね。

世界には必死になって少子化を食い止めようとしている国もある。中でもハンガリーおうせいの対策はすごい。ハンガリーだけにハンガリー精神が旺盛なのかな。いやそれ、ハングリー精神だろ。とにかく、ハンガリーはGDPの4.7%も少子化対策に使っているんだって。その対策の一部を列挙してみよう。4人目の子供を産むと定年まで所得税ゼロ。育児休暇は有給で3年間。結婚したら税額控除。妊娠したら給付金。子供3人で無利子ローン返済不要、不動産や車の購入費補助、学生ローン返済減免。体外受精は無料、などなどビックリするくらいの対策だ。このお陰で、40年くらい前から続いていた人口減少うらやに歯止めが掛かってきたと言うから羨ましい。

日本の場合、「異次元」と言うんだから、まさかハンガリーに引けを取るようなことは無いと思うのだが・・・。「まさか、まさか、そのまさかだった」なんていう期待外れの対策だったら・・・。そんなことになったら、少子しょうし、いや、笑止千万しょうしせんばんだよな。おじさん、それこそ異次元の世界に飛んで行きたくなっちゃうよ。

第14回イルミネーション点灯式を開催しました

12月1日(木)に、白子キャンパス1号館玄関前にて第14回イルミネーション点灯式を行いました。昨年に続き今年も多くの方にご参加をいただき、点灯式ではカウントダウンに合わせて過去最多の11万2千個のLEDが白子キャンパスを鮮やかな光で包みました。

今年度は四日市メリノール学院の聖歌隊による合唱や、kidsjazzシンガーの百本マイさんによるリサイタル、そして本学学生ボランティアによるトーンチャイムの演奏など、音楽で参加者の皆さんに笑顔を届けることができました。

当日は感染防止対策を十分に行ったうえで、学生ボランティアが司会進行を行ったり、ソーシャルディスタンスの確保を呼び掛けたり駐車場警備を行ったりと、積極的にボランティア活動を行いました。参加した学生たちは学科や学年の垣根を超えて仲を深める良い機会となりました。



また、点灯式とあわせて、ウクライナの子どもの命を守るため「ウクライナ緊急支援募金」の呼びかけを行いました。その結果、千代崎・白子両キャンパスを合わせ、31,059円もの募金が集まりました。皆さんの温かいご支援とご協力、ありがとうございました。

とても寒いなかでの点灯式となりましたが、地域の方々にも足を運んでいただき、実施できたことを感慨深く感じるとともに、大変嬉しく思います。参加いただきました皆さんに感謝申し上げます。

＜ボランティアセンター・学生課＞

行事予定

2023年2月～5月

2月1日(水)～3日(金) 後期・冬期定期試験と解説
 11日(土・祝) 医療科学研究科 学位審査発表会
 13日(月)～17日(金) 後期・冬期 追・再試験
 28日(火) 卒業判定会議
 3月4日(土) 大学院2期入試
 9日(木) 一般選抜B日程
 10日(金) 学位授与式
 17日(金) 教育研究会
 18日(土) 春のオープンキャンパス
 22日(水) 進級判定会議
 30日(木)～31(金) 在学生健康診断
 31日(金) 在学生ガイダンス

4月1日(土) 在学生健康診断
 3日(月) 新入生オリエンテーション(学科)
 在学生健康診断
 4日(火) 入学式
 5日(水) 新入生オリエンテーション(全体)
 在学生健康診断
 6日(木) 前期・春期授業開始
 15日(土)～16日(日) 新入生健康診断
 29日(土) 補講日
 5月13日(土) 補講日
 27日(土) 補講日
 29日(月)～30日(火) 春期定期試験と解説

※上記予定は変更になる場合があります。サマスポおよびホームページで最新情報を確認してください。